

高野伸生委員 次に、同じく環境局にお伺いしたいと思います。

一昨年開催された COP21 のパリ協定が採択されて、地球温暖化対策にかわる歴史的な合意が行われたことは記憶に新しいんですけども、昨年 11 月には異例の早さでパリ協定が発効して、新たな国際的取り組みがスタートしたということです。国内でもさまざまな低炭素社会への取り組みが加速してきたように思います。

さて、大阪市では、昨年度から環境審議会において、地球温暖化対策実行計画の改定について検討を進め、本年 1 月に答申を受けて、パブリックコメントを実施したと聞いておりますが、答申の内容、あるいはまたパブリックコメントで寄せられた意見についてお伺いをいたします。

井原環境局環境施策部環境施策課長 お答えいたします。

まず、答申でございますが、大阪市は日本を代表する都市として、国の温室効果ガス削減目標の達成や世界の温暖化対策に貢献していくべきである、また、施策の展開に当たりましては、気候変動に関する情報を日常生活と直接結びつくものと実感できるよう発信し、市民・事業者と連携し、大阪らしさを生かしながら、積極的な温暖化対策を推し進めること、大阪市役所は率先して事務事業の省エネルギー化に取り組むとともに、低炭素なエネルギーの調達を促進すること、さらには、中長期を見据え、大阪市の地域特性を生かした新しいエネルギー施策を展開するとともに、水素利用の促進方策についても検討すること等の御意見でございました。

答申内容を反映した改定計画案につきましては、本年 2 月 1 日から 3 月 1 日までパブリックコメントを実施しましたところ、今世紀後半には、脱炭素社会を目指してきたパリ協定の目標に沿いまして、さらに野心的な目標を掲げるべきである、また、温暖化対策に加えまして防災力向上の観点からも、自立分散型エネルギーの導入等を促進すべきといった内容で、計 9 件の御意見をいただきました。

これらの御意見を踏まえまして、また市会での御議論を踏まえ、本年度内に改定計画を策定してまいりたいと考えております。以上でございます。

高野伸生委員 今、中長期的な取り組みの一つとして、水素の利用の促進について触れられました。これにつきましては、前回の環境対策特別委員会で私もお伺いしたところでもありますけれども、いま一度、この水素に関連する質疑をさせていただきたいと思います。

委員長、資料の配付をお願いします。

島田まり委員長 高野委員より、質疑の参考に資するため資料の配付の申し出がありますので、これを許します。

高野伸生委員 水素エネルギーの利用の促進については、世界中が今取り組み出したということでございます。

身近な問題として、まず、水素と燃料電池を組み合わせた、いわゆる水素エネルギーバス、これが今月の 21 日から東京都で路線バスとしていよいよ実用開始するというニュースがあります。まだ台数的には少ないんですけども、今 2 台納車されて、将来的には東京オリンピック・パラリンピックに向けて、この燃料電池バスを 100 台以上導入する計画ということでもあります。

これに比べて、我々大阪市は何かかなり出おけているという気がいたします。まず、私は前日も環境対策特別委員会で質疑をしたのは、まずインフラとなる水素のステーション、この配置がまだまだ進んでないように思いますけれども、今の資料の一番後ろのページは、現在配備されてる水素ステーションの位置でございます。この白い星印が現在配備されたということでございます。

実際に、この森之宮のステーションは、我が会派でも視察に行っていました。このように、燃料電池バスへのまずインフラを整備するということがなんですけども、つい先日、これに対して新聞報道で、大阪での水素ステーションを今の 4 倍にするということが報じられました。まず、これについて詳しくお聞きしたいと思います。

河合環境局環境施策部エネルギー政策担当課長兼経済戦略局立地推進部夢洲・咲洲地区調整担当課長 お答え申し上げます。

水素ステーションの整備につきましては、平成 27 年 1 月に策定いたしました大阪府域における水素ステーション整備計画に基づいて拡大を図ってまいってきたところでございます。

現在の整備状況ですけども、ただいま委員の御説明ありましたとおり、府内の目標数、実は 9 カ所ございまして、現在 7 カ所が整備されたところでございます。このうち、大阪府域につきましては、目標数 2 カ所に対して 3 カ所ということで、既に目標を達成したところでございます。

委員から御指摘のありましたさらなる水素ステーションの拡充でございますけども、国が平成 28 年 3 月にロードマップを改訂いたしまして、水素ステーションの整備目標数を現在の 4 倍に引き上げたことを受けまして、大阪府におきましては、大阪府や関係企業、それから学識者で組織しております協議会におきまして、大阪におけるステーションの整備目標数について見直しを検討いたしました。

このたび、新たな目標といたしまして、平成 37 年度、2025 年度までに府内の整備目標数を現在の 4 倍に相当する 28 カ所と定めたところでございます。

今後は、この新たな目標の達成に向けまして、大阪府や産学官との連携のもとで、市域のステーションの整備拡大を目指してまいりたいと考えてございます。以上でございます。

高野伸生委員 2025年度までに今の4倍にするということらしいんですけど、2025年といいますと、もし万博が誘致できれば、万博の年となろうかと思いますが、恐らくこのパラリンピック・オリンピックでかなりの水素を使った燃料バスだけじゃなしに、普通の乗用車なり、いろんな車が、水素化による車がもう出現してると思うんです。

オリンピックが終わったらすぐ万博ということになるんでしょうけど、恐らくもう10年後は、相当な水素を利用した、いわゆる新しい車が国内に導入されてるんじゃないかと思います。そういう目標に向けて、やっぱりインフラをまずしっかりと整備していくことが肝要ではないかと思いますんで、ひとつその辺の、また産官学連携のもと、いろんな計画をしっかりと練っていただきたいと思います。

今、水素ステーションの拡大をすることによって、ユーザーのほうも購買意欲を高めていくことになろうかと思います。ただ、今の現状では、確かに燃料電池自動車のコストは非常に高いです。聞いたら、この東京都のバスも1台約1億円ぐらいするらしい。現在の大阪市内で走ってる市バスは大体2,000万ないし、そういう金額だと思うんです。これは大量生産されますと、もちろんコストが下がるんでしょうけども、早くそういうぐあいにならないと、なかなか参入は難しいんじゃないかと思います。

それともう1点、これは我々の認識ですけども、水素というのは何か非常に危険性の高いものだとの認識があります。安全性について非常に不安視する市民もたくさんいらっしゃると思います。

この水素社会の実現を目指すために、大阪市はこれらの課題をどう克服されようとしているのかお伺いいたします。

河合環境局環境施策部エネルギー政策担当課長兼経済戦略局立地推進部夢洲・咲洲地区調整担当課長 お答え申し上げます。

市民の水素に対する不安の払拭や理解の促進につきましては、現在、大阪市内に3カ所整備されております水素ステーションのうち、森之宮ステーション、先生も御視察いただいたところでございますけども、この森之宮ステーションに情報発信拠点施設を併設いたしまして、水素社会到来のイメージを具現化するための映像でありますとか、燃料電池自動車の展示、また地域と連携しました環境イベント等に活用しておりますところでございます。

また、市民向け環境学習イベントでの燃料電池自動車の展示や、また燃料電池車の特徴でもあります非常用電源機能の紹介、また市民向けの環境学習講座の開催など、さまざまな機会を通じまして、燃料電池自動車や水素エネルギーについて安全性を含めた普及啓発を関係企業と連携しながら行っているところでございます。

今年度発行予定の小中学校の副読本「おおさか環境科」におきましては、水素に関する内容の充実も図っているところでございます。本市といたしましては、水素が電気やガスと同様に

一般に使えるようなエネルギーとして受け入れられますように、引き続き水素社会の実現に向けた機運づくりに取り組んでまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。以上でございます。

高野伸生委員 資料の配付をお願いいたします。

島田まり委員長 高野委員より、質疑の参考に資するため資料の配付の申し出がありますので、これを許します。

高野伸生委員 今お話がございました、いわゆる環境教育として大阪市でも小学校の5・6年生にこういう水素と燃料電池に関する授業で教えてるということでもありますけど、それと我々の生活の中で、実際に我々も森之宮ステーションに行って、説明聞いてわかったんですが、なかなか水素が漏れて、火がついたらすぐ爆発するんじゃないかとかいう、そういうイメージがあるんですけど、実際に安全性というのは説明を受けてよくわかりましたし、できるだけそういうオープンな場所で、そういう説明員が理解を進められるような努力を大阪市としてもやっていただきたいなと思います。

また、このような水素エネルギー社会、これから隅々に浸透させていくというのは、いろんな時間と労力もかかるかと思いますが、大阪は東京に次ぐ大都市ですので、ぜひしっかりとこの展開、またこれ一つの成長産業ですからね、これはやっぱりほかの国でもこういう新しい燃料電池を使ったいろんな輸送車やまた船やとか、いろんなものの用途が広がっていきますので、ぜひ取り組みをよろしくお願ひしたいと思います。